

大雨・台風の前にもう一度確認！

2019年（令和元年）10月12日に伊豆半島に上陸した令和元年東日本台風（台風19号）は日本列島に沿って北上し、13日にかけて東日本の広い範囲に記録的な大雨をもたらしました。管内でも、河川の氾濫等により、広範囲に浸水被害が及び、夜間に浸水が広がったことから多くの住民が逃げ遅れる状況となりました。

いつ同じような災害が発生するかもしれない中で、私たちはどのようにして命を守ればいいのでしょうか。

時系列で考える避難のポイント

台風や大雨の前に

周りの状況を確認

各自治体のハザードマップやウェブサイトを参考に、住んでいる場所、学校、職場の周辺の危険や避難場所を確認しましょう。

【正常性バイアス】危険が迫っているにも関わらず、「大丈夫だろう」と正常な判断ができなくなる心理的な作用があります。「避難指示が出たら避難所に避難する。」と自分で決めておくことで迷いを減らし、命を守る行動がとれるようにしましょう。

雨が降り始めたら

積極的な情報収集

テレビ、ラジオ、インターネットで気象情報と避難情報を確認し、避難できる準備を整えておきましょう。

家族が離れて行動しなければいけないときに、お互いに状況を確認できるよう、連絡手段や避難場所を事前に確認しておきましょう。

避難情報が 発令されたら

避難することは自分だけでなく家族を守る大切な決断

率先した避難で家族や周囲の人の行動を促しましょう。

夜中に大雨が想定される場合や、お年寄りや障害のある方とその家族は、警戒レベル3で避難しましょう！



警戒レベル	避難情報等
5	緊急安全確保
~~<警戒レベル4までに必ず避難！>~~	
4	避難指示
3	高齢者等避難
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	早期注意情報 (気象庁)

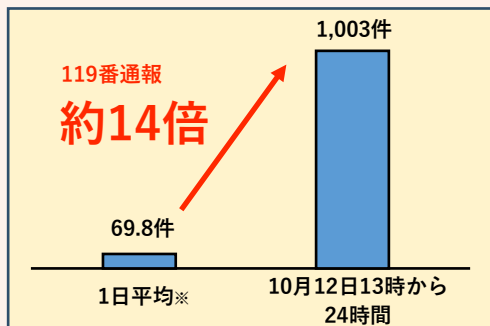
危険な場所から全員避難

高齢者や障害のある方は避難

※高齢者等以外でも自主的に避難

警戒レベル5（緊急安全確保）は何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況です。自治体が災害等の情報を把握しきれない場合は発令されないことがあります。

グラフで振り返る避難のポイント

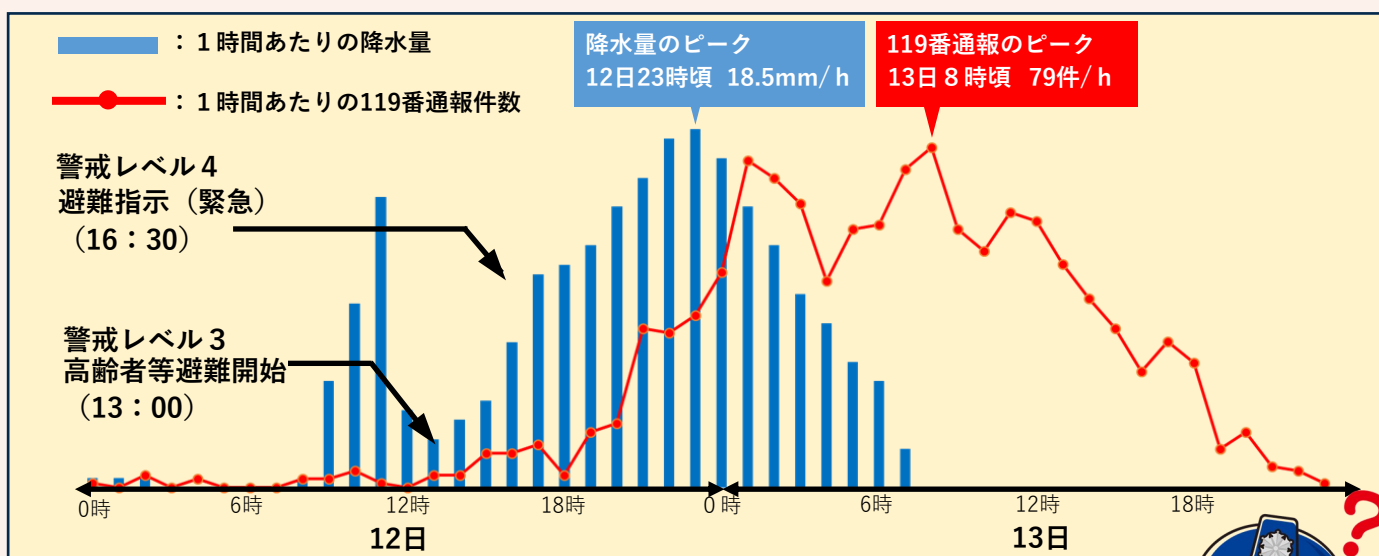


左の図は2019年の1日の平均119番通報件数と、令和元年東日本台風が上陸した2019年10月12日の13時から24時間の119番通報件数を比較したものです。

令和元年東日本台風では1日の平均119番通報件数の約14倍の119番通報が集中し、その結果、通信指令センターの回線がすべて埋まってしまい一時119番通報が繋がらないという状態になりました。

※一日平均に10月分の件数は含めていない

下の図は令和元年東日本台風が上陸した2019年10月12日から13日の2日間で、消防本部で観測した降水量と119番通報件数の推移を重ねたグラフです。このグラフの形から避難のポイントを考えてみましょう。



※ 警戒レベルは2021年のガイドライン改定前のもの

避難情報発令の時間は福島県「令和元年台風第19号等に関する災害対応検証報告書」p24より

※ 119番通報のすべてが台風に関連するものではありません

※ 降水量は消防本部(郡山市堂前町)の観測値



降水量

降水量のピークは12日の23時ごろでした。
しかし、警戒レベル4の避難指示はその約6時間前には発令されています。

119番通報件数

119番通報件数のピークは13日の朝8時ごろで、降水量は落ち着いてきてから119番通報が相次いだことがわかります。

事例

自宅が床上浸水したため2階に避難したが、翌日も水が引かず身動きが取れないため救助を要請。しかし消防をはじめ警察・自衛隊のボートにも数に限りがあり、すぐに駆け付けることはできず、待っていただくしかなかったという事例が実際にありました。

救助が来るまでの間は、食事やトイレなど、大変不便であったことが考えられます。

一人ひとりができること

台風の情報は、天気予報の事前予測により進路や降水量などの情報を得ることができます。さらにテレビやラジオだけでなく、公的機関のSNSでもリアルタイムに情報が発信されています。早めの準備と避難によって命を守る行動をとりましょう。